

2020年4月20日

文学部の学生・ご父母の皆様へ

文学部長 宇佐美毅

文学部における遠隔授業についての考え方

今般の非常事態に対し、学生・ご父母の皆様も不安な日々を送っていらっしゃると思います。文学部の教職員一同は、学生の安全確保と教育の質の保障を両立させることを前提に、4月23日の「特別措置期間」における授業開始に向けて準備を進めているところです。

「特別措置期間」には、学生は大学に出向くことなく、遠隔授業を自宅にて受けることとなっています。当初は2週間と想定された期間は、現段階でさらに3週間延長され、その後についても不透明な状況と言わざるを得ません。遠隔授業が長期的に継続実施される可能性があることを踏まえ、この度私たちは、文学部としての遠隔授業に対する基本的な考え方をまとめました。

遠隔授業については、しばしばオンラインで動画を視聴する授業、或いはウェブ会議システム（Webex等）を活用したリアルタイムでやり取りを行う授業が思い浮かべられるようです。しかし、文学部では一律にそのような方法を用いて授業を行うのは難しく、授業の性格にあわせてさまざまなメディア（授業支援システム manaba 等）を活用した授業を実施することが必要であると考えています。

その理由は、以下の通りです。

- ・文学部には、演習・講義のほか語学・実習・実技などさまざまな種類の授業があり、授業の特徴によって効果的な遠隔授業の方法が異なります。
- ・すべての授業で、リアルタイムの授業を行うことでインターネット回線に大きな負荷がかかり、結果的に授業が予定通り実施できないことが想定されます。この間、教員は在学生とリアルタイム授業の模擬をおこなってみましたが、参加者が増加するにつれ回線の不具合が生じるリスクが高まるため、回線容量を抑えるための様々な工夫が必要となることが確認されました。
- ・アンケート調査の結果、自宅で十分なインターネット環境を整えることが困難な学生が一定数存在することが明らかになっています。本来であればそのような学生に対しては、文学部棟（3号館）のパソコン室を開放して、インターネット環境を提供することが可能です。しかし残念ながら「特別措置期間」は、学生はキャンパスに立ち入ることができません。
- ・学生の能力や背景が極めて多様であることを踏まえ、授業形態も多様性への配慮が必要です。何らかのハンディを有する学生であっても安心して授業を受けられる環境を整え

ていきたいと考えています。

以上を踏まえ、文学部では、授業支援システムである「manaba」を活用することを基本とし、学生がより効果的に学べるよう科目ごとに各教員が工夫して授業を実施していきます。具体的には、教員が manaba を通じて学びのきっかけとなる資料を提示し、学生はそれを見て自己学習を行うこととなります。自己学習の成果は、manaba を通じて教員が把握し、学生へのフィードバックを行います。また、「掲示板（スレッド）」やメールによって、教員と学生が双方向のやり取りができるように努めます。このような方法で、学生のみなさんが学びを深めていくという方法が、文学部における遠隔授業の基本的なスタイルとなります。

実際の授業は、学びの目標や履修登録した人の数や特性に応じて、柔軟に運用されることとなります。その際には当然ながら、学生からの要望に対しては、合理的な配慮を行うことといたします。

なお、履修する科目によってはスマートフォンの機能だけでは十分な学修効果を得ることが難しいケースもあります。パソコンや十分なインターネット環境が整っていると授業科目の選択肢も広がり、社会で活躍する場合にはPC操作等の情報スキルは欠かせないものとなりますので、学生の皆さんには、この機会にこれらの環境を整えていただくことが望ましいと考えています。

以上、ご理解いただければ幸いです、

特別措置期間の開始後、遠隔授業に関するご相談・お問い合わせをしていただくための専用フォームをウェブ上に開設する予定です。詳細につきましては、Cplus等で改めてお知らせいたします。

以上